# タイトル:下北街道





広場 上野公園



蔭山結哉 建築設計計画研究室

#### 線形の敷地 線路あと

#### □はじめに

選定した敷地は小田急線の地下化によって 下北沢周にできる空地。この空地の長さは2.2 km、幅は20mといったとても細長いものであ る。面積は上野公園の1/16だが周長は上野公 園と同等である。

### □広場と線形の敷地の違い

周長が長いという事は街に多く接するとい う事である。街に接する部分が多いという事 はそのぶん街に与える影響が大きく多くの人 がその敷地に接するということである。

周長と街への接し方以外にも線形の敷地と 広場には違いがある。広場には具体的な方向 性がないため、人がたまりやすくそこでは留 まるような形でのコミュニケーションが育ま れる。線形の敷地には具体的な方向性があり 人はその中で動き回る。そこでは動きながら のコミュニケーションがとられる。

日本人は右の図のひろこうじにも見られる ように動きのある場所でコミュニケーション を育んできた。

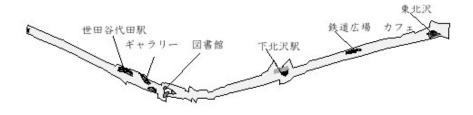
#### □コンセプト

上記のようなことからこの線形の敷地はコ ミュニティのきっかけをつくる道として設計 されるべきだと考えた。コミュニティを育む には何か共有するものが必要だと考える。趣 味の共有などはそれに当てはまる。しかしそ れだけでは地域のコミュニティを育てるのは 難しいだろう。地域のコミュニティを育てる ためにはもっと様々な人が共有できるもので なくてはならない。そこで私は見る事で様々 な風景と場所を共有しようと考えた。

## □プログラム

まず右のダイアグラム図に示すように建築を 配置する。ギャラリーには昔世田谷区に昔い た小説家の本などが展示される。図書館には 比較的新しい時代の本が所蔵される。鉄道広 場には電車を意識したデザインのカフェが設 置される。世田谷代田駅、東北沢駅は敷地の 中でも高い位置にあるため屋上を展望台とす る。下北沢駅は視界の確保と歩きやすさを優 先するため地下に埋める。それぞれの駅のド ライエリアを多くとり地上と繋げる。





## □デザイン

それぞれの場所はその場所に根ざしたもの もしくは、その地形を生かした風景によって 全体が構成されている。そのなかで建築は風 景と一体となるか、それを妨げないような形 となっている。風景は、森、川、畑、丘、丘 陵、並木道、電車、といった種類がありそれ ぞれの場所にあった木・草・花が配置される

道と緑はグラデーションになるように噛み 合わせるようなデザインとし、主となる道に は線路のレールを残し方向を示すものとする

